

『わたしを離さないで』 原題 NEVER LET ME GO



© 2010 Twentieth Century Fox

映画批評

『わたしを離さないで』

～臓器提供者か、介護人か。永遠の愛とは…

塚田三千代（翻訳家・映画アナリスト）

©m.tsukada

映画の原作、カズオ・イシグロの「わたしを離さないで」に登場する主人公は、クローン人間という仮想世界の人間で将来は臓器提供者(donor)かその優秀な介護人(carer)になることを約束されてきた若者たちである。3人の主人公キャシー、トミー、ルースは英才教育プロジェクトで運営される“ヘールシャム”寄宿学校(施設)ですごす。18歳以後は農場のコテージで自由に過ごせるが、やがては臓器提供者あるいはその介護人になるか、2者選択をしながらその時を待つ宿命にある。

映画は1990年代の末期に優秀な介護人となったキャッシー・Hの回想するナレーション(語り/ナラティブ)で始まり、彼女のナレーションで終わるのだが、映画全般にわたる過去が積み重なる記憶として彼女の回想の中で色濃く鮮明になっていく。人間の行動と心象状況——永遠の愛・友情・嫉妬・癒し・生と死に向き合う姿は記憶の中にだけとどまるものとして描かれている。

映画は原作どおりに描かれている。1990年末期の頃、"My name is Kathy H. I'm thirty-one years old, and I've been a carer now for over eleven years. That's sounds long enough, I know, but actually they want me to go on for another

eight months, until the end of this year. That'll make it almost exactly twelve years. ". . . と、キャッシーの回想するナレーションで映画も始まる。かれら3人の人生はヘールシヤム寄宿学校時代(13~16歳で卒業)からコテージ時代を経て介護人時代へと. . . 続く。

時間軸の時のながれを追って3人の行動と思考を描いていく。外の世界から隔離された場所と限られた時間の中で、それと向き合って過ごしながらそれを待っている3人の姿をえがく。かれらの行動と心象——永遠の愛・友情・嫉妬・癒し・生と死にむきあう姿を映像化する。みごとに映像化しているのだが、介護と提供という限定された二つの立場で、双方の心の中の思いや伝えたいことや、思い違いなどのすべてを映像とセリフで表現しつくすことにはかなり無理があるのではと思える。映画に限界があるというわけではないが、小説には冷静にコントロールされたたコトバによる語りによってのみ伝えられるものもあるからである。

映画の中でシンボライズされた映像；3人が初めて垣根をこえて着いた岸辺——そこで見つけたのは放置されて錆腐食しはじめた一隻のボート。歓喜は空しさにかわり、孤独と寂寥さがはしる。手術室で行われている臓器摘出手術。なんと無邪気で楽しかった学園光景とまったく対象的な光景である。このようなリアルな場面や風景の中で主人公たちがクローン人間であると知りながらも、映画を見終わった後も彼らは現実の人間と観客に思わせてしまう。映画の全編をとおしてグリーン色のフィルターをかけて、カズオ・イシグロ原作によるフィクションという文学センスを漂わせてあるのだが——。

映像は繊細でときに鋭いカメラ・ショットで組みたてられていく。映画の中にシンボライズされた映像、例えばルースのポシブルを探しにノースフォークへ3人で出かける小旅行では、街の旅行会社オフィスの窓ガラス越しに中にいる女性を見つめる3人を印象的にクローズアップする。その帰路で3人が初めて有刺鉄線の柵を潜り抜けてたどり着いた沼の先にある岸辺で、彼らがそこで見た物は放置されて錆腐食しはじめた一隻の廃船である。舟で海に出れるという希望と歓喜は突如に空虚さにかわる。孤独と寂寥とした感覚がはしる。——そして、手術室でのオペレーションのシーン。これは彼らの無邪気で楽しかった幼い頃の学園光景とはまったく正反対の光景である。光と闇である。このリアルな場面や風景は絶句させる切なさで迫ってくる。本映画の主人公たちがクローン人間であると知っていても、彼らは現実の人間と思込ませしてしまうのである。

優秀な介護人とはどのような人間か。臓器提供という社会的問題やそのプロジェクトの実体はどこに…。じつは現実世界にあるその問題の本質に眼を向けることが、カズオ・イシグロからのメッセージであろう。そしてそれは監督マーク・ロマネクの手腕によって見事に映像化されている。原作良し、映画も秀逸である。

付記したいことは映画のタイトルについてである。「わたしを離さないで」('Never Let Me Go')の歌は、'Never let me go... Oh baby, baby... Never let me go...'のリフレインが何度も繰り返される歌で、ジュディ・ブリッジウォーターが歌う『夜に聞く歌』(Songs After Dark by Judy Bridgewater 1956)に収録されている。映画の中で、この歌を11歳のキャッシーがジャケット写真を胸に抱いて一人でうっとりとしているシーンがある。映画も小説もこれに因んで題名が付けられている。

【映画情報】

監督:マーク・ロマネク.

原作:カズオ・イシグロ.

脚本:アレックス・ガーランド.

キャスト:キャリー・マリガン、アンドリュー・ガーフィールド

キーラ・ナイトレイ、シャーロット・ランプリング

配給:20世紀フォックス


2011年3月26日(土)TOHO シネマズシヤンテ、Bunkamura ル・シネマ他にて全国ロードショー

© 2011 m.tsukada. All Rights Reserved.


【関連ニュース】

●2017年10月5日 カズオ・イシグロは、「日の名残り」、「わたしを離さないで」、等の作品で、2017年度のノーベル文学賞を受賞した。

●カズオ・イシグロ原作『わたしを離さないで』が、人物・場所などの設定をすべて日本に置き換え、はじめてテレビ映画に製作されてTBS局から放映されている。

 ●TBS金曜ドラマ:わたしを離さないで

1月15日に続き、8回シリーズで放映される。

 ●綾瀬はるか×カズオ・イシグロの奇跡の対談

TV放映に先立って、原作者カズオ・イシグロと主演の綾瀬はるかの対談がロンドンで行われた。カズオ・イシグロは応えている。本作品は15年間中に3回執筆して完成させた作品。人間の人生は短い、だから死に直面してそれとどう付き合うかを書きました。綾瀬はるかさんはご自分の思うように演じてくださればよいのです。